

浮力調整器 STAYTHEE

■はじめに

このたびは浮力調整器 STAYTHEE（以下、本製品）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品にカメラが装填された水中ハウジングケースを連結すると、水中浮遊撮影を楽しむことができます。本製品の機能を十分活用していただくため、ご使用前に本書をよくお読みいただき、必ず保管してください。

■使用上のご注意

- ・本書を必ずお読みの上、正しくお使いください。
- ・誤った使い方をしますと、カメラおよび水中ハウジングケース、本製品の故障や浸水の原因となり、修理不能になる場合があります。
- ・ご使用の際は、本書に従って必ず防水性の確認を行ってください。
- ・浸水によるカメラの故障やデータの消失、本製品の分解、改造、修理に伴う事故等に関し、当社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。また、使用時の人身、物損事故に関しての保証は致しかねます。
- ・本製品の防水性能については、当社試験方法によるものであり、無破損・無故障を保証するものではありません。

■安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示の例



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。

表示例  意味：分解禁止

本製品を安全にお使いいただくために、以下の内容をお守りください。



- 本製品の取り扱い注意について理解できない乳児、幼児、子供などの手の届く場所に、本製品を保管しないでください。落下によるけがや、小さい部品を飲み込むなど、事故の原因になります。万が一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師の診断を受けてください。
- 使用されないときには、本製品からカメラおよび水中ハウジングケースを取り外してください。
- 本製品には樹脂製素材を使用しています。強い衝撃や圧迫によって破損した場合、破片や割れた本体部分でけがをするおそれがあります。取り扱いには十分に注意してください。
- 本製品を水中で使用する際は、常に水深や潜水時間に注意してください。撮影に集中しすぎると潜水事故につながる危険性があります。
- 本製品が上昇または落下した際は追いかけてください。潜水事故につながる危険性があります。



本製品を絶対に分解、改造、修理しないでください。浸水の原因になります。



- 浸水や故障などの事故を防ぐため、本書をよく読んで、ご使用前後に準備とお手入れを必ず行ってください。また、本製品と水中ハウジングケース、リールストラップ、マクロ撮影キットなどのアクセサリ類を分離した状態で保管してください。
- 万が一、本製品内に浸水が起きた場合は、すぐに使用を中止してください。浮力調整ができなくなるおそれがあります。
- 本製品に衝撃が加わった場合は、防水性能は保証できません。
- グリップを外すときは、ほこりやゴミに注意してください。Oリングの隙間から浸水につながるおそれがあります。
- ご使用前には、必ず本書に従ってOリングの確認を行ってください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などが本製品の中に入らないように注意してください。
- 強い振動、ショック、圧力などは、破損や故障、防水性能が損なわれる原因となります。オートバイ、車、船などの振動に対しては、クッション材に包むなどして保護してください。万が一、強い振動、ショック、圧力などが加わった場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- 耐衝撃性能は備えていません。落下などの強い衝撃は浸水の原因になりますのでご注意ください。



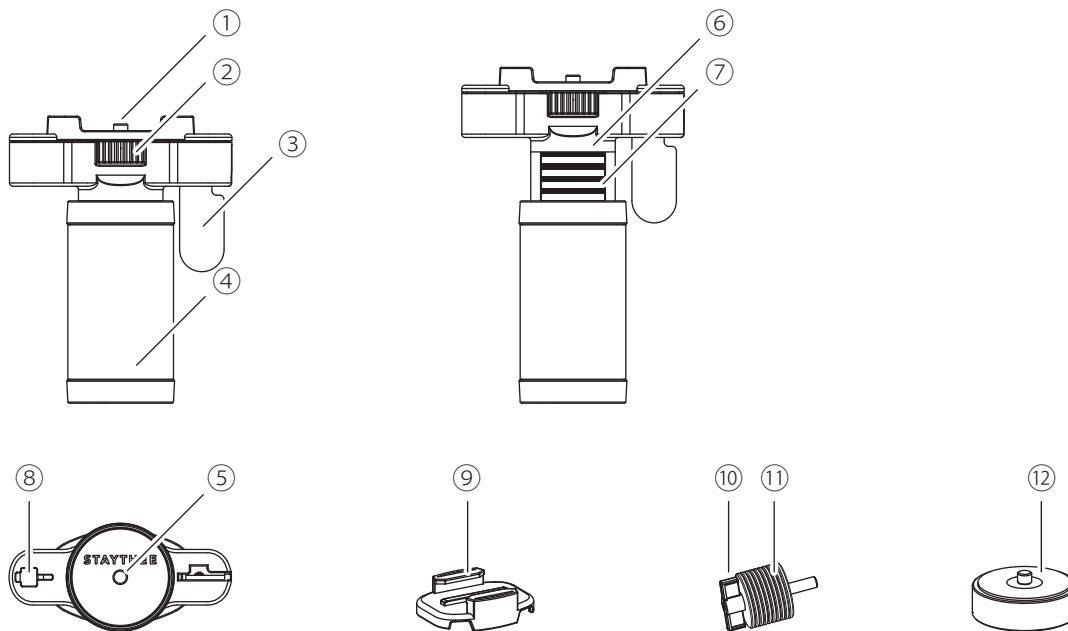
- 高温多湿の所での使用は避けてください。特に車内は高温になるため、本製品を車内に放置しないでください。
- 砂や塵、ほこりなどが多い場所でグリップを開閉するとOリング部分に異物が付着し、防水性能が損なわれ、水漏れの原因となることがあります。そのような場所でグリップを開閉しないでください。
- 本製品が水にぬれた状態でグリップを開けないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所で保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となります。乾燥した風通しのよい場所に保管してください。
- 強い水流を受ける環境では使用しないでください。

■ 同梱品

ご使用前に、付属品がすべてそろっているかお確かめください。

- ・浮力調整器 STAYTHEE
- ・GoPro用アダプター
- ・外付けおもり
- ・はじめにお読みください

■ 各部の名称



- ①雲台
- ②カメラ固定ネジ
- ③フラップ
- ④グリップ
- ⑤三脚用1/4インチネジ穴
- ⑥シリンダー
- ⑦調整目盛り
- ⑧マクロ撮影キット固定穴
- ⑨GoPro用アダプター
- ⑩おもり固定用ネジ
- ⑪内蔵おもり (10枚)
- ⑫外付けおもり

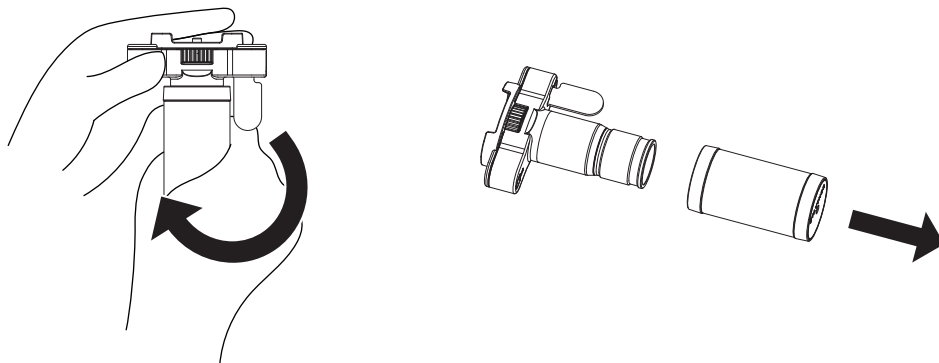
- ・⑩おもり固定用ネジおよび⑪内蔵おもり (10枚) は、グリップを外したシリンダー内部に固定されています。

■ 準備

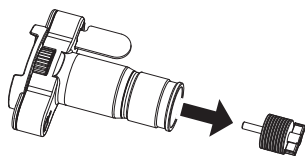
カメラへ接続する前に

水中で本製品を使用する前に、お使いのカメラにあわせてSTAYTHEEのおもりを調整してください。

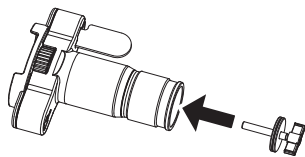
1. グリップを左へ回転させ、シリンダーから取り外す。



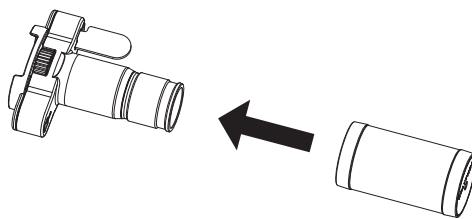
2. シリンダーの内側に固定されたおもり固定用ネジおよび、内蔵おもりを全て取り外してください。



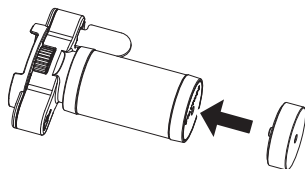
3. おもり設定表を参照し、内蔵おもりをシリンダーの内側に固定してください。



4. グリップにシリンダーを挿入し、グリップを押し込みながら右へ回転させ、シリンダーへ取り付ける。押し込まないと空回りします。



5. おもり設定表を参照し、三脚用1/4インチネジ穴に外付けおもりを固定してください。



- おもり設定表に従ったおもりを固定しない場合、中性浮力の調整ができなくなるおそれがあります。
- おもり固定用ネジは、内蔵おもりが動かないようしっかり締めこんで固定してください。
- 外付けおもりは、脱落しないようしっかり締めこんで固定してください。定期的に緩みがないか確認してください。
- 使用しないおもりは、紛失しないよう保管してください。

おもり設定表

カメラ / 水中ハウジングケース型番	内蔵おもり枚数	外付けおもり
RICOH THETA SC2 / RICOH 水中ハウジングケース TW-1	7	使用
RICOH THETA V / RICOH 水中ハウジングケース TW-1	5	使用
RICOH THETA X / RICOH 水中ハウジングケース TW-2	7	使用
Insta360 ONE X / Insta360 ONE X 潜水ケース	10	使用
Insta360 ONE X2 / Insta360 ONE X2 潜水ケース	4	使用
Insta360 X3 / Insta360 X3 潜水ケース	2	使用
GoPro HERO9 Black / GoPro 保護ハウジング	0 (注1)	不使用
GoPro HERO10 Black / GoPro 保護ハウジング	0 (注2)	不使用
GoPro HERO11 Black / GoPro 保護ハウジング	0 (注2)	不使用
GoPro MAX / GLIDER SPORTS 防水ハウジング GLD4164GO272	1	不使用

注1：内蔵おもりおよび、おもり固定用ネジは取り付けないでください。

注2：内蔵おもりをつけずに、おもり固定用ネジのみをシリンダーの内側に取り付けてください。

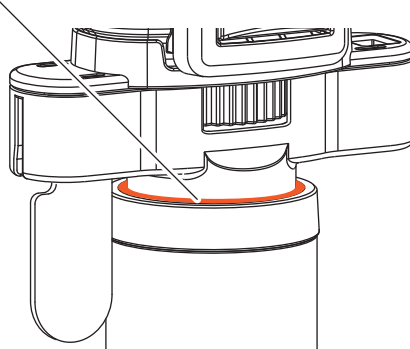
- ・淡水で使用される場合は、おもり枚数を1～2枚を目安に減らしてください。

水中で使用する前に

水中で本製品を使用する前に、防水性を確認してください。

1. 本製品が浸かる程度の浅いバケツなどに水をため、2～3分ほど水中に沈める。
2. 水中で浮力調整範囲の上限および下限を超えない範囲でグリップを回転させ、グリップとシリンダーの間隙（下図参照）からエアールれがないことを確認する。
3. 本製品を水から出し、乾いたやわらかい布で水分を十分に拭き取る。
4. シリンダーの内側に浸水がないことを確認する。

グリップとシリンダーの間隙
からエアールれがないこと



カメラが装填された水中ハウジングケースの連結

■ RICOH THETA SC2 / RICOH THETA V / RICOH THETA X 用

カメラを水中ハウジングケースへ装填する方法は、水中ハウジングケースの取扱説明書を参照ください。

1. 水中ハウジングケースをバックルを正面にして、フラップが左側にくるよう雲台に載せる。(図1)
水中ハウジングケースが倒れないように軽く手で支えながら、カメラ固定ネジを回してしっかり固定する。
2. 水中ハウジングケースのストラップを本製品のグリップに通し、スライダを絞ってください。(図2)
3. フラップを上方向に90度回転させる。(図3)

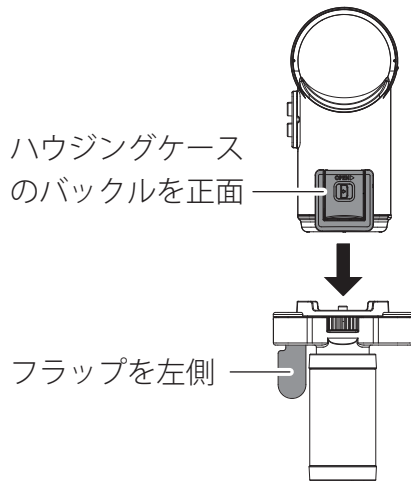


図1

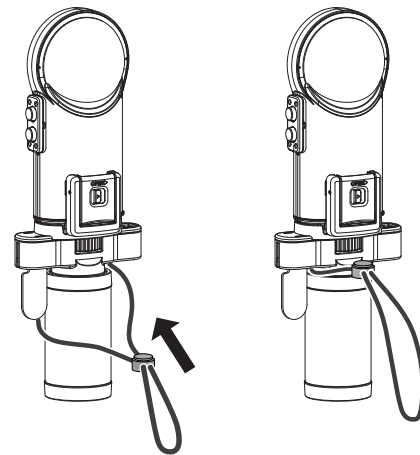


図2

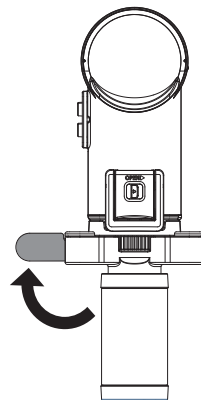


図3

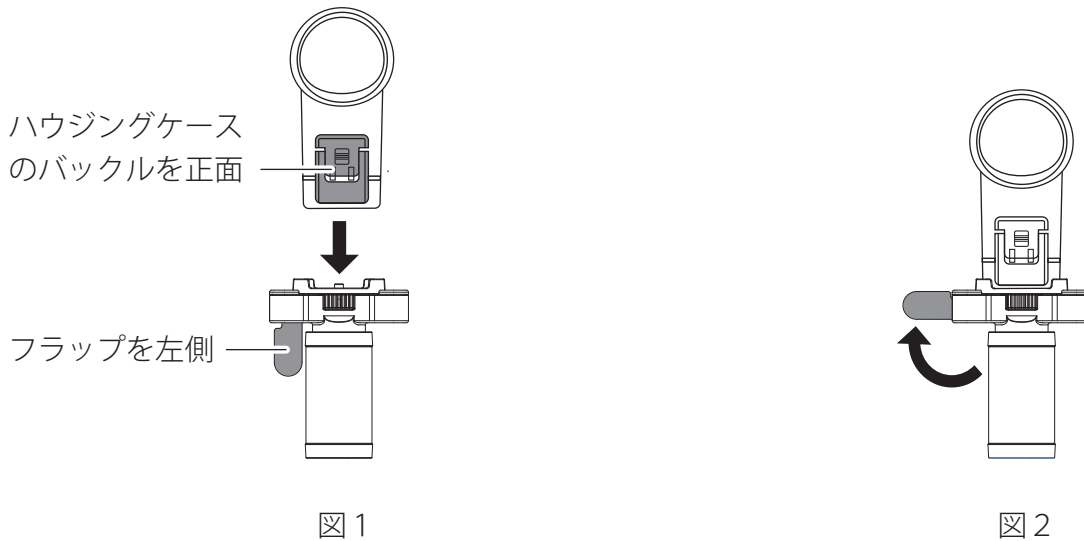
- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、水中ハウジングケースを傷つけないよう注意してください。
- 本製品と水中ハウジングケースを連結するときは、水中ハウジングケースのストラップを本製品のグリップに通してください。水中で分離した際に紛失するおそれがあります。
- 本製品の雲台の切り欠き部と水中ハウジングケースのバックルが合うように連結してください。
- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、異物を挟み込んでいないか、カメラ固定ネジがしっかり締まっているか、よく確認してください。
- フラップを上方向に90度回転させない場合、水中で本製品の姿勢が安定しないおそれがあります。
- 本製品と水中ハウジングケースを連結した状態では、水中ハウジングケースを開けないでください。バックルを破損するおそれがあります。
- 水中ハウジングケースは必ず純正品をお使いください。

カメラが装填された水中ハウジングケースの連結

■ Insta360 ONE X 用

カメラを水中ハウジングケースへ装填する方法は、水中ハウジングケースの取扱説明書を参照ください。

1. 水中ハウジングケースをバックルを正面にして、フラップが左側にくるよう雲台に載せる。(図1)
水中ハウジングケースが倒れないように軽く手で支えながら、カメラ固定ネジを回してしっかり固定する。
2. フラップを上方向に90度回転させる。(図2)



- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、水中ハウジングケースを傷つけないよう注意してください。
- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、異物を挟み込んでいないか、カメラ固定ネジがしっかり締まっているか、よく確認してください。
- フラップを上方向に90度回転させない場合、水中で本製品の姿勢が安定しないおそれがあります。
- 本製品と水中ハウジングケースを連結した状態では、水中ハウジングケースを開けないでください。バックルを破損するおそれがあります。
- 水中ハウジングケースは必ず純正品をお使いください。

カメラが装填された水中ハウジングケースの連結

■ Insta360 ONE X2 / Insta360 X3 用

カメラを水中ハウジングケースへ装填し、1/4マウントアダプターを固定する方法は、水中ハウジングケースの取扱説明書を参照ください。

1. 水中ハウジングケースを1/4マウントアダプターをつまみネジとフラップが右側にくるよう雲台に載せる。(図1)
水中ハウジングケースが倒れないように軽く手で支えながら、カメラ固定ネジを回してしっかり固定する。
2. フラップを上方向に90度回転させる。(図2)

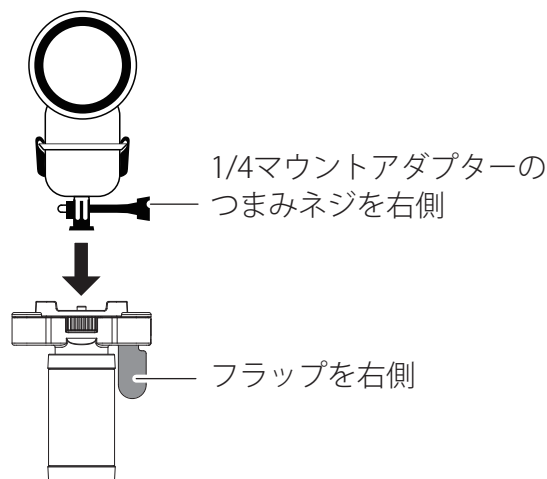


図1

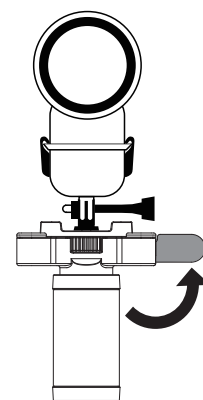


図2

- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、水中ハウジングケースを傷つけないよう注意してください。
- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、異物を挟み込んでいないか、カメラ固定ネジがしっかり締まっているか、よく確認してください。
- フラップを上方向に90度回転させない場合、水中で本製品の姿勢が安定しないおそれがあります。
- 本製品と水中ハウジングケースを連結した状態では、水中ハウジングケースを開けないでください。バックルを破損するおそれがあります。
- 水中ハウジングケースは必ず純正品をお使いください。
- 水中ハウジングケースを回してカメラ固定ネジへ固定しないでください。カメラ固定ネジを破損するおそれがあります。
- 先に1/4マウントアダプターのみを雲台へ固定しないでください。後から水中ハウジングケースを固定する場合、カメラ固定ネジを破損するおそれがあります。

カメラが装填された水中ハウジングケースの連結

■ GoPro HERO9 Black / GoPro HERO10 Black / GoPro HERO11 Black 用

カメラを水中ハウジングケースへ装填し、1/4マウントアダプターを固定する方法は、水中ハウジングケースの取扱説明書を参照ください。

1. 同梱品のGoPro用アダプターへ水中ハウジングケースをスライドさせて固定する。(図1)
2. 水中ハウジングケースを三脚用アダプターのつまみネジとフラップが右側にくるよう雲台に載せる。(図2)
水中ハウジングケースが倒れないように軽く手で支えながら、カメラ固定ネジを回してしっかり固定する。
3. フラップを上方向に90度回転させる。(図3)

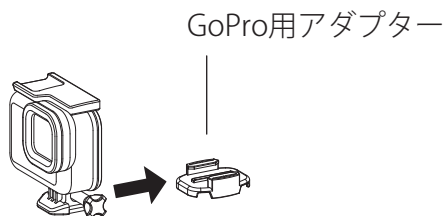


図1

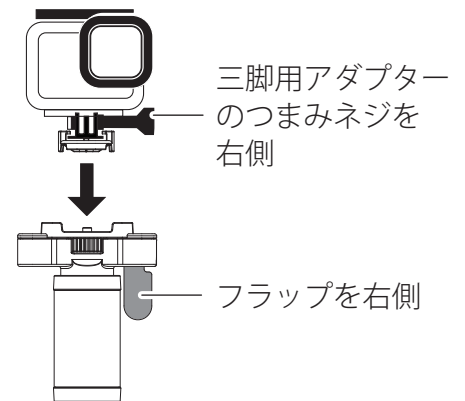


図2

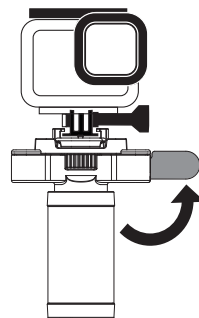


図3

- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、水中ハウジングケースを傷つけないよう注意してください。
- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、異物を挟み込んでいないか、カメラ固定ネジがしっかり締まっているか、よく確認してください。
- フラップを上方向に90度回転させない場合、水中で本製品の姿勢が安定しないおそれがあります。
- 本製品と水中ハウジングケースを連結した状態では、水中ハウジングケースを開けないでください。バックルを破損するおそれがあります。
- 水中ハウジングケースは必ず純正品をお使いください。

カメラが装填された水中ハウジングケースの連結

■ GoPro Max 用

カメラを水中ハウジングケースへ装填し、三脚用アダプターを固定する方法は、水中ハウジングケースの取扱説明書を参照ください。

1. 水中ハウジングケースを三脚用アダプターをつまみネジとフラップが右側にくるよう雲台に載せる。
(図1)
水中ハウジングケースが倒れないように軽く手で支えながら、カメラ固定ネジを回してしっかり固定する。
2. フラップを上方向に90度回転させる。(図2)

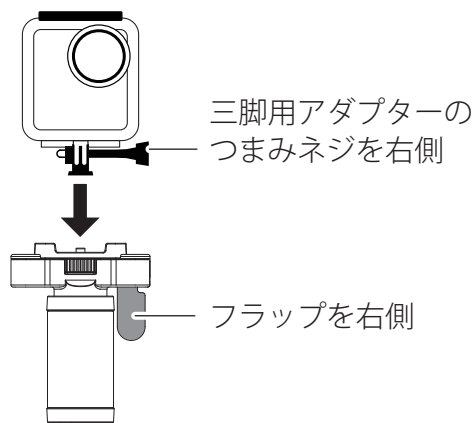


図1

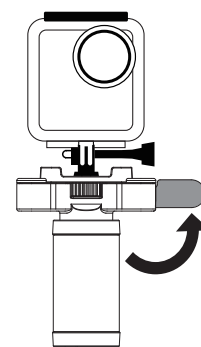


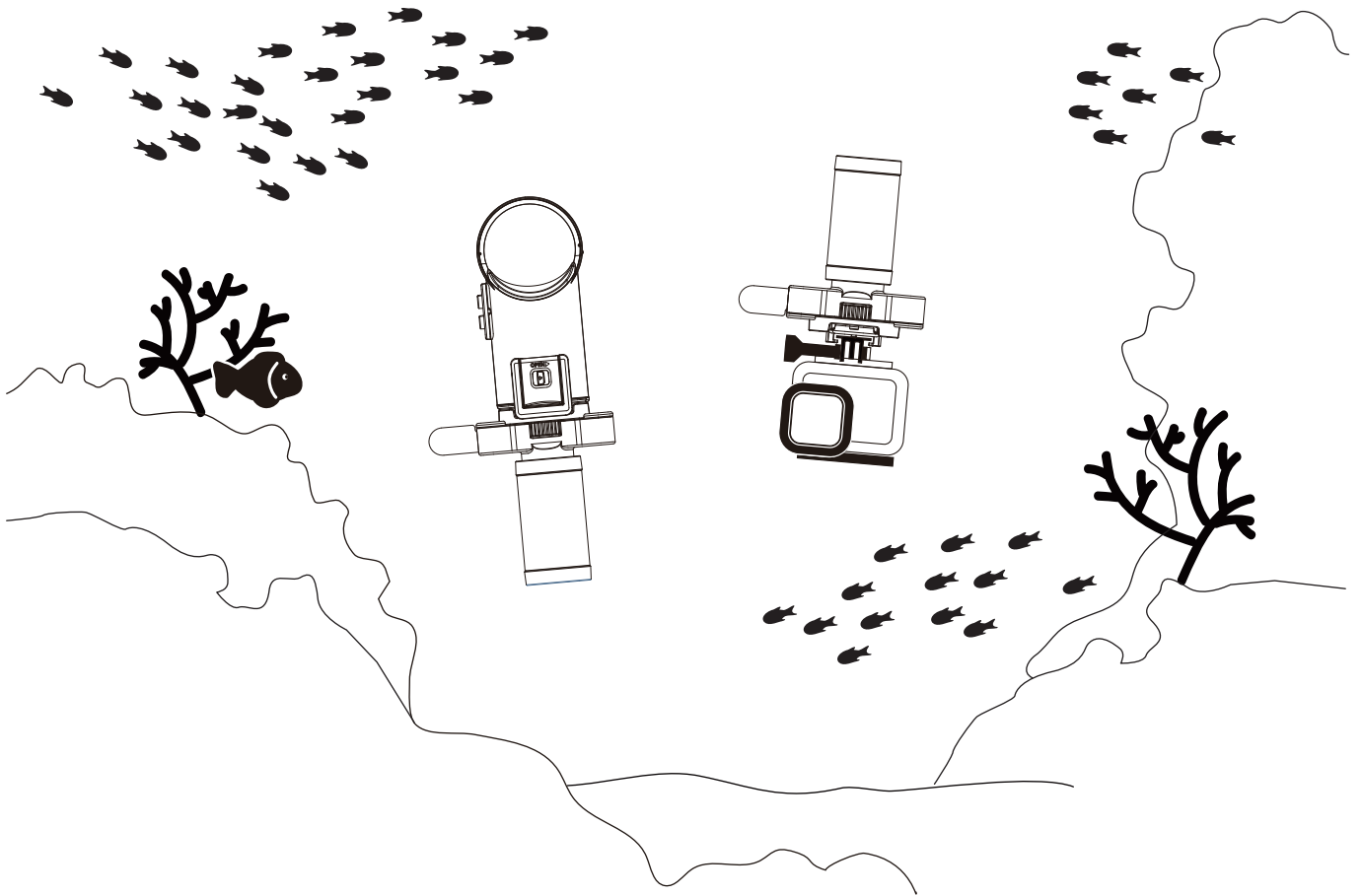
図2

- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、水中ハウジングケースを傷つけないよう注意してください。
- 本製品を水中ハウジングケースへ連結するときに、異物を挟み込んでいないか、カメラ固定ネジがしっかり締まっているか、よく確認してください。
- フラップを上方向に90度回転させない場合、水中で本製品の姿勢が安定しないおそれがあります。
- 本製品と水中ハウジングケースを連結した状態では、水中ハウジングケースを開けないでください。バックルを破損するおそれがあります。
- 水中ハウジングケースは必ず指定の物をお使いください。
- 水中ハウジングケースを回してカメラ固定ネジへ固定しないでください。カメラ固定ネジを破損するおそれがあります。
- 先に三脚用アダプターのみを雲台へ固定しないでください。後から水中ハウジングケースを固定する場合、カメラ固定ネジを破損するおそれがあります。

■ 使用方法

本製品にカメラが装填された水中ハウジングケースを連結すると、水中浮遊撮影を楽しむことができます。

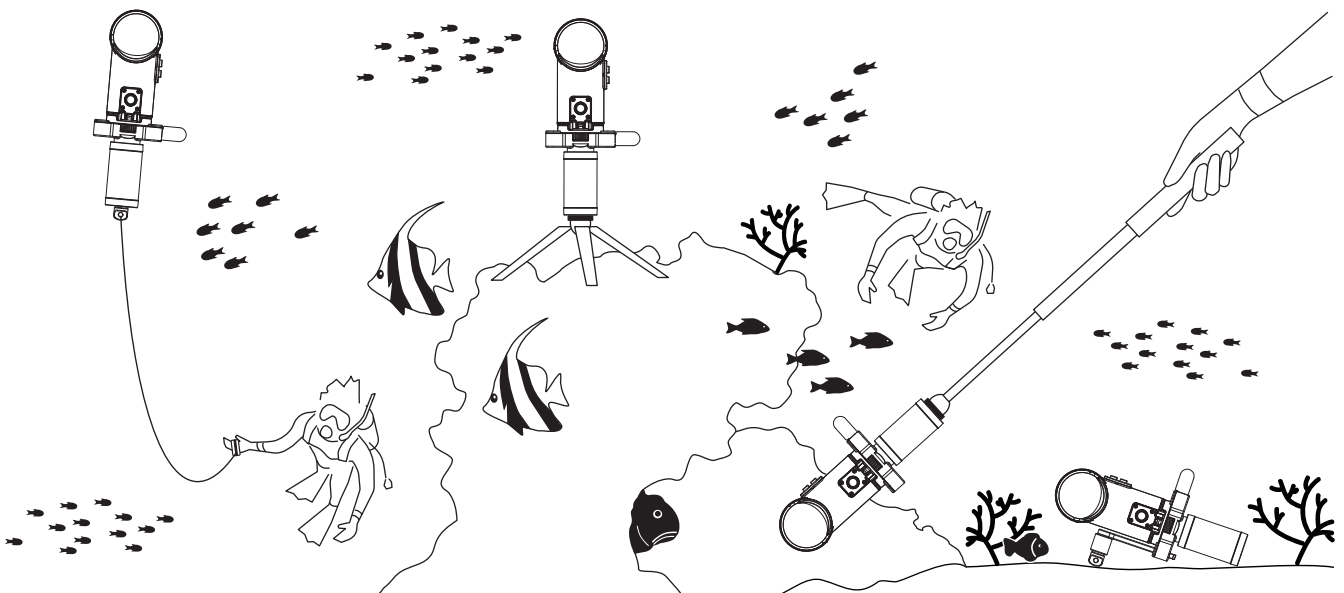
※GoPro をご使用時の浮遊状態は倒立になります。



本製品のグリップ底部にある三脚用1/4インチネジ穴を使用すると、リールストラップや三脚、自撮り棒などを連結して、水中浮遊撮影以外にも色々な撮影方法を楽しむことができます。

また、マクロ撮影キットを連結すると、本製品を海底に寝かせて水中撮影を楽しむこともできます。

※リールストラップとマクロ撮影キットは別売りアクセサリーです

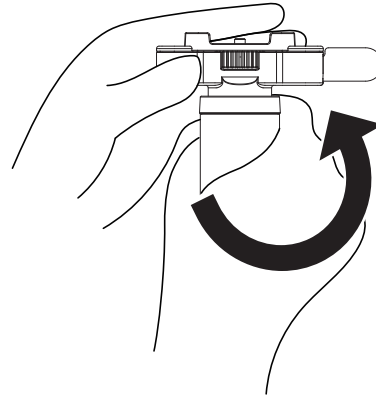
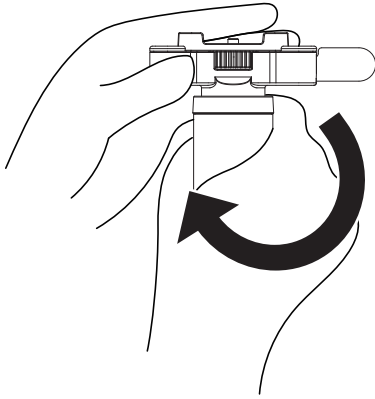


水中で浮力を調整する方法

浮力の調整はグリップを操作して行います。グリップを操作する際は、本製品を必ず両手で持って行ってください。片手で操作したり、水中ハウジングケースを持って操作すると、落下や破損などの原因になります。

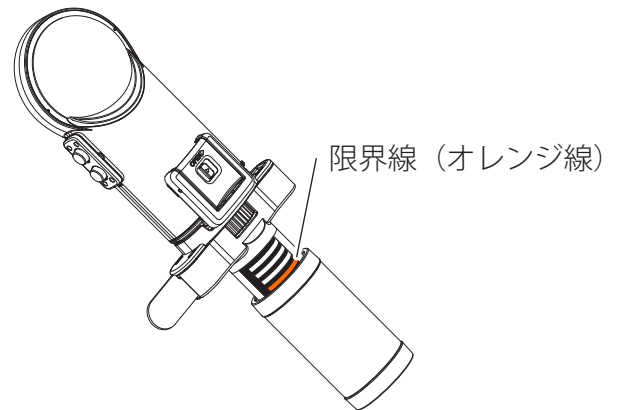
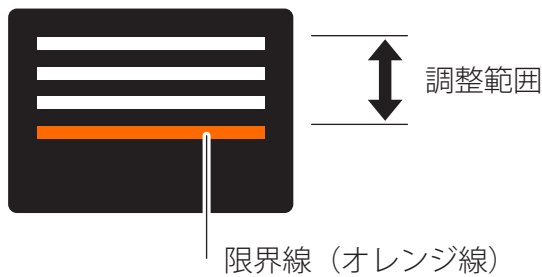
○浮力を大きくする場合、グリップを左へ回します。

○浮力を小さくする場合、グリップを右へ回します。



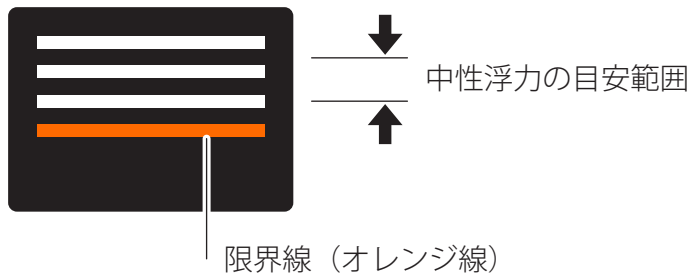
調整限界

水中ではシリンダーに表示した限界線を越えない範囲で浮力調整を行ってください。限界線（オレンジ線）が見えたらそれ以上回さないでください。限界線を越えると浸水などの原因になります。



中性浮力

本製品は水中で中性浮力(浮遊状態)での撮影が楽しめます。中性浮力にする場合は以下を目安に調整してください。但し、ご使用のカメラや使用環境により水中での浮力は異なりますので、必ず微調整を行ってください。



- 水中に入れたら、本製品から気泡が出なくなるまで逆さにしたり左右に振ってください。正常に浮力の調整が行えないおそれがあります。
- 浮力調整は慎重に行ってください。グリップの操作量は少しでも、浮力は大きく変わります。
- 使用環境によって水中での浮力は異なります。必ず使用する度に調整を行ってください。

■ 水中で使用する際の注意

- ・本製品を持って入水するときは、強い水圧を受けないように注意してください。浸水するおそれがあります。
- ・水深30m以内の場所で使用してください。それ以上深い場所で使用したり、衝撃や圧迫を加えると、破損や浸水のおそれがあります。
- ・急激な温度変化があると、水中ハウジングケース内外が結露します。水中ハウジングケースをバックやビニール袋などに入れて、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ・温水や温泉では使用できません。
- ・本製品が上昇または落下した際は、追いかけないでください。潜水事故につながる危険性があります。

■ お手入れ

使用後は本製品と水中ハウジングケース、リールストラップ、マクロ撮影キットなどのアクセサリ類を分離させてから、水洗いを行い、水滴を乾いたタオル等でよく拭いてください。

水中ハウジングケースのお手入れは、水中ハウジングケースの取扱説明書を参照ください。

お手入れ後は、本製品と水中ハウジングケース、リールストラップ、マクロ撮影キットなどのアクセサリ類を分離した状態で保管してください。

- ・布で拭くときに本製品に砂などが付いていると、表面に傷をつけるおそれがあります。
- ・水洗い後には乾いたやわらかい布で水分を十分に拭き取ってください。ドライヤーやストーブなどによる乾燥は、絶対に行わないでください。
- ・汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、石けん水、中性洗剤、アルコールなどでの洗浄は、浸水など不具合の原因になる場合があります。

■ 海での使用後

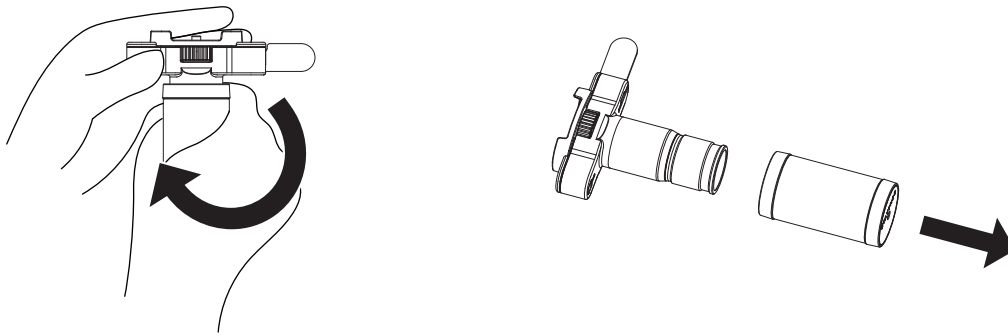
海で使用したまま放置すると、塩分が残って結晶化し、浸水など不具合の原因になる場合があります。

海で使用したあとは、必ず以下のお手入れを行ってください。

1. 本製品と水中ハウジングケース、リールストラップ、マクロ撮影キット、外付けおもりなどのアクセサリ類を分離させてください。
2. 真水を貯めたバケツなどに10～20分、本製品と水中ハウジングケース、リールストラップ、マクロ撮影キットなどのアクセサリ類を浸す。
3. 真水から上げたら、水道水を流しながら水洗いする。
4. 乾いたやわらかい布で水滴を取り除く。

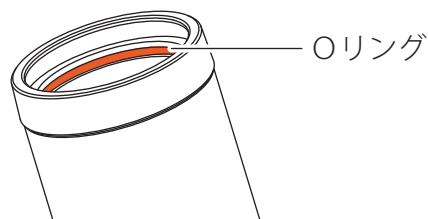
■ Oリングのお手入れ

1. グリップを左へ回転させ、シリンダーから取り外す。

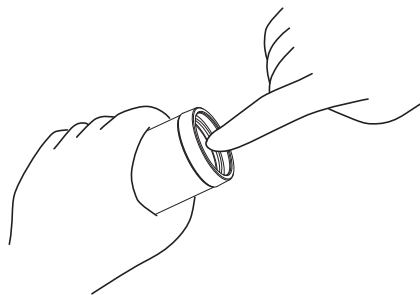


2. Oリングに異物やキズ、ひび割れがないことを確認する。

キズやひび割れがある場合は、ご使用を中止して、当社お客様相談センターまたはお客様窓口にご相談ください。



3. Oリングが摩耗しないよう、シリコングリスをOリングの表面に薄く塗る。



4. シリンダーとOリングに異物がないことを確認する。

5. グリップにシリンダーを挿入し、グリップを押し込みながら右へ回転させ、シリンダーへ取り付ける。押し込まないと空回りします。

- シリコングリスは、水中ハウジングケースに付属しているシリコングリス、または、市販品のシリコングリスをお使いください。
- Oリング、シリコングリスのご購入については、当社お客様相談センターまたはお客様窓口にご相談ください。

■ 主な仕様

寸法	約135 × 130 × 48.5 mm (フラップ展開時)
質量	185g
耐圧水深	30m
主要材質	ポリカーボネート、シリコンゴム、POM、ステンレス、ニトリルゴム

■ 対象カメラ／水中ハウジングケース

カメラ / 水中ハウジングケース型番
RICOH THETA SC2 / RICOH 水中ハウジングケース TW-1 RICOH THETA V / RICOH 水中ハウジングケース TW-1 RICOH THETA X / RICOH 水中ハウジングケース TW-2
Insta360 ONE X / Insta360 ONE X 潜水ケース Insta360 ONE X2 / Insta360 ONE X2 潜水ケース Insta360 X3 / Insta360 X3 潜水ケース
GoPro HERO9 Black / GoPro 保護ハウジング GoPro HERO10 Black / GoPro 保護ハウジング GoPro HERO11 Black / GoPro 保護ハウジング GoPro MAX / GLIDER SPORTS 防水ハウジング GLD4164GO272

- ・水中ハウジングケースは必ず指定の物をお使いください。

※ Insta360 X3、Insta360 ONE X2、Insta360 ONE X、Insta360 は、Shenzhen Arashi Vision の商標または登録商標です。

※本製品および/またはサービスは、GoPro Inc. またはその製品やサービスとの提携関係や関連性は一切なく、その推奨を受けているものでもありません。GoPro、HERO およびそれぞれのロゴは、GoPro, Inc. の商標または登録商標です。

※GLIDER は、株式会社メイジエ の商標または登録商標です。

本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。

© 2023 RICOH COMPANY, LTD.

Printed in Japan 2023 年 4 月